

□ アナリスト週間相場予想

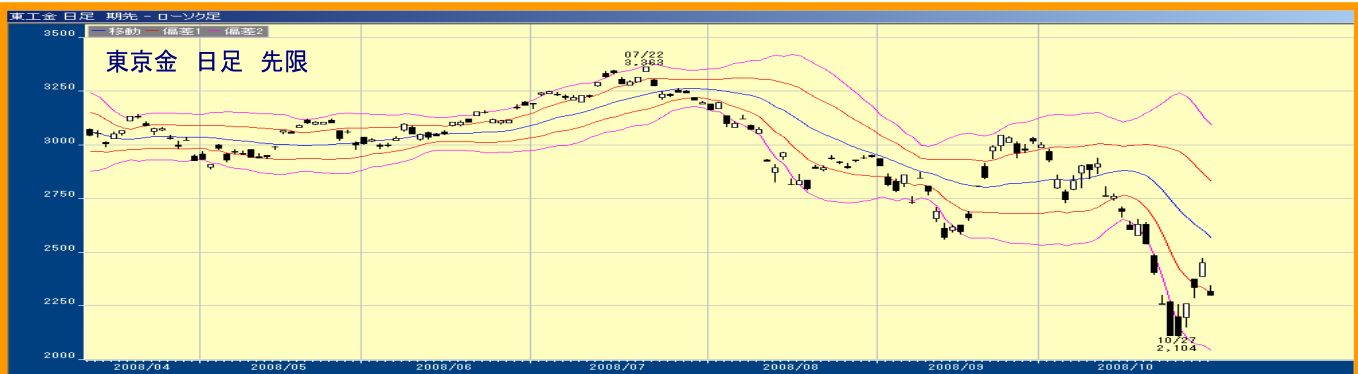
		
江崎		
西		

Pick up News

〔注目スケジュール〕

- 11/3 米ISM非製造業景況指数
- 4 オーストラリア政策金利発表
ユーロ圏生産者物価指数、米製造業受注指数
- 5 ユーロ圏生産者物価指数
米ADP雇用統計、米ISM非製造業景況指数
- 6 英国、欧州政策金利発表
米新規失業保険申請件数
- 7 米雇用統計、米商品先物取引委員会 (CFTC) 建玉報告

□ テクニカル分析 (担当: 西 勝之)



東京金については本日付けの日刊工業新聞に記した内容と若干かぶるが、2500円と2100円の往來を意識すべき。この400円のレンジは大きいようで実は他銘柄に比して非常に安定感のある数値となっており、全商品の中で一番変動率において落ち着いているという事ができる。そして金融商品としての性格も有する金については為替・株・債権市場のファンダメンタルズに大きく左右されそうなのが今回は白金に焦点を当てたい。チャートの見方はガソリンや穀物同様ははっきりした買い転換サインはみられない。そして売り筆頭の大手商事と買い筆頭の大手物産の動きとして現在はまだ売り方のほうに有利な状態。具体的には売り方商事が特に自社で叩く事なくファンド勢や日計り勢が大きく叩き込んだ所を大衆筋やネットトレーダーが投げ、売り方商事が危なげなく買い戻すのに比べ、買い方大手は突っ込んだ所を買うよりも、戻った所で転売を進める枚数のほうが多いのがここ1週間の展開として定着してしまっている。つまりは白金の内部要因は金に比べてまだ好転しておらず、買い方の頼みの綱である外銀と大手物産は積極的に買い攻勢に出てこないという事である。よってチャートの好転が見られず、内部要因も悪いままであれば、金に比べて白金はまだ戻り売りで臨んだほうが良いと当方感じる(10/31 15:10現在)

□ ファンダメンタル分析 (担当: 江崎 和弘)

世界的な金融緩和の流れを背景に、金融市場はようやく落ち着きを取り戻してきた。世界的な株価急騰に関しては空売り筋の締め上げの結果であり、禍根を残すとの辛口批評もあるが、投資家マインドが好転した意味は大きい。金相場に関して言えば、安全資産として資金の受け皿になっていた意味合いがほどけ、今後も株高が継続すれば、ドル建てのNY金にとっては上値圧迫要因となることが考えられる。ただし、株高はファンドの換金売りの抑止とともに、リスクテイカーを喚起する可能性があり、それが結果的に売られ過ぎたクロス円の戻りを助長する公算が大きい。つまりはドル安・ユーロ高コースが想定されるわけで、この点からは支援材料ともなる。また、株高が原油高につながれば、インフレ指標として原油との相関性を発揮するシナリオも描くことができる。

結局、金にとっては強弱両面が揃うことになり、一方通行で動くとのイメージは持ちづらい。まして国内相場はドル/円の動きが色濃く反映されるために、こちらもイベント多く、目先は読みづらい展開となりそうだ。従って、金は中立～やや弱気に見ておくこととした。噴き値が出れば、そこは短期売りポジションを狙うのが理想と考える。

一方、白金に関しては、金との価格差縮小で思惑も入りやすい状況にある。目立った材料は11/18に予定されているジョンソン・マッセイ社の需給報告ぐらいである。年2回(5月、11月)発表されるもので、5月時点では年初に発生した南アの電力危機が供給不足を呼ぶとの内容であったが、世界経済が様変わりし、今や触媒需要の減少で供給過剰との見方に傾いている。手探り状態の中で、適正価格を探る動きが出ると考えるべきであろう。

◆ 添付されている『取引の重要事項』をかならずご確認ください。

RE0066(許可取得日08/10/31)